

テキスト p.45～49 で紹介している「参考 1. デバイスへ書き込み(QSPI プログラミング)」の方法で、Vivado2016.4 環境では書き込めない場合があります。

原因は、Bsys3 ボードのフラッシュデバイスが変更されたためです。

フラッシュデバイスは、Spansion (部品番号 [S25FL032](#)) と Macronix 社 (部品番号 [MX25L3233FMI-08G](#)) のどちらかが搭載されています。

どちらのフラッシュデバイスが搭載されているかは、ボード裏の IC6 パッケージに印刷されている部品番号と製造元のロゴで確認できます。この情報は Digilent 社のサイトでも公開されています。

<https://reference.digilentinc.com/reference/programmable-logic/bsys-3/reference-manual#memory>

Macronix 社のフラッシュデバイスに QSPI プログラミングをするには、Vivado2018.3 以降をインストールする必要があります。

また、テキスト p.46 の ④ では以下のように選択してください。

- ④ 「Add Configuration Memory Device」ウィンドウが開かれたら、「Select Configuration Memory Part」の中から「mx25l3233f-spi-x1_x2_x4」を選択し、「OK」をクリックします。
- Filter 欄で
- ① Manufacturer : [Macronix](#)
 - ② Density (Mb) : [32](#)
- に設定すると、リストに表示されるデバイスを絞ることができます。

